

# 小百合キンダーホームの自己評価

令和4年3月12日

A…よくできた B…できた C…一部改善が必要 D…改善しなければならない

## 1. 保育理念・保育観

1	園の保育理念・保育方針・全体的な計画を全職員に周知している	A
2	園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	A
3	定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会をつくっている	A
4	全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践・分析・評価している	B

毎年の総括会議で、法人や園の理念・方針を読み上げ確認をしている。非常勤パート職員も年数を重ねる事で、理念・方針について理解をしてもらえていると思う。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で、行事を見直したり中止したりすることが多く、計画撮りに進まない事が残念に思う。

## 2. 保育計画・保育実践と振り返り

1	全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し計画的に保育を行っている	A
2	子どもの発達を理解し、その先の見通しを持った保育を工夫している	A
3	配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ちその子に応じた対応をしている	B
4	保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	B

年度当初に、クラス毎保育計画の立案を。途中定期的に見直しながら、先を見通した保育を行っている。ただ、配慮が必要な子どもや気になる子どもが多く、専門家のアドバイスを伺いながら保育を行ってきたが、本当に一人ひとりに寄り添えていたかという点では、さらに努力が必要だと感じた。

## 3. 環境・安全

1	一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
2	園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	B
3	職員一人一人が健康・安全に対する認識を共有している	A
4	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A

感染症対策については、全職員が「自分に何が出来るか」の観点から、「少しずつ継続して」と「自分の行動に責任を持つ」に着目し努力してきた。職員の並々ならぬ努力に感謝をしたい。感染症対策上おもちゃを制限してしまったり、黙食、或いは保育士の声掛けをやめるなど疑問に思うことはあったが、その中でも子どもたちが別の面で育っている事を感じた一年だった。危機管理意識については、特にリーダー職員を中心に意識を深めていきたい。

#### 4. 食育

1	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	A
2	栄養士・保育士等が連携し、食育を積極的にすすめている	A
3	食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A
4	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A

「毎日コツコツと」行ってきた食育。保育士や栄養士の垣根無く、一緒に学んだり工夫したりしながら食育を進めてきた。食に対する関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもたちの姿を見れば、やれることはまだあると感じる。これからも食に興味関心を持つ子どもたちを育てていきたい。また栄養士サイドから、保育園給食についての研究本の発行は、保護者はもとより、職員にとって大きな励みとなった。

#### 5. 職員構成・役割分担・研修

1	職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進められるよう心がけている	A
2	園内・園外研修の年間計画を立て、実行している	A
3	各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A

市動体でなく市動バーと目的は違いますが、取れるものは、オンラインやズームで行う事で「いつでもどこでも」参加することが出来る。お休みしても次の日に記録を見てから仕事に取り掛かる事で、全職員が共通理解を持つことが出来、コミュニケーションも取れたと感じる。そこで出る話を基に園内研修を行ったり、お互いの「今」の仕事を理解したりしている。

#### 6. 保護者支援・子育て支援

1	保護者に対し、園の保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	C
2	保護者の状況等、個人情報への漏えいに気を付けている	A
3	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感するよう、心掛けている	C
4	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	C

感染症予防の為保護者が園舎内に入らなかつたので、今日のエピソードを連絡帳で伝えるなどの努力はしたものの、発信が弱かったことは否めない。今後はドキュメンテーションの導入などで発信をしていきたい。地域の子育て家庭に対しても制限が設けられた為近くの公園へ出向くなどしたが、園児との交流は出来なかった。ただ、園の気になる子や保護者、近隣の同様の家庭について、保健師と連携を取りながら、子育てを応援出来たと思う。

#### 7. 小学校や地域社会との連携

1	定期的に地域の保育園や幼稚園・小学校との交流を行っている	C
2	町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	C
3	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れる体制が整えられている	B

地域の小学校との連携や実習生の受入れは、必要最小限にとどめ行った。地域の方との交流は行ってない。ただ、法人評議員会などで、地域の方々の意見を聞くことが出来、今しばらくはお互いに我慢であろうとの事。早期終息を願う。